

こごみ 日和60

特集：グリーンキーパーと歩んできた5年間

～京都光華女子大学 地域連携推進センター

センター長 高野拓樹さん～

ごみ減量会員さん訪問記「ごみ減の会員さんってどんな方？」:

京都銀行さん

なごみ日和：KBS京都 アナウンサー 海平 和

コラム：これっているかしら？

缶ビールの6缶パックパッケージ

活動報告：平成25年度 市民等からの提案による

ごみ減量モデル事業（助成事業） 成果報告会

地域活動レポート：演じて、伝えて、エコパワー発信

小学生たちの力を伸ばす活動

～九条地域ごみ減量推進会～



土と対話し、
草木を愛でる心を育てる
本当の優しさは、
生きものが教えてくれる—



写真 高野拓樹（京都光華女子大学 准教授）

「こごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。最新号・バックナンバーもウェブで公開中！ <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとって ぐみを減らそう！

京都市ごみ減量推進会議

Q ごみ減

検索

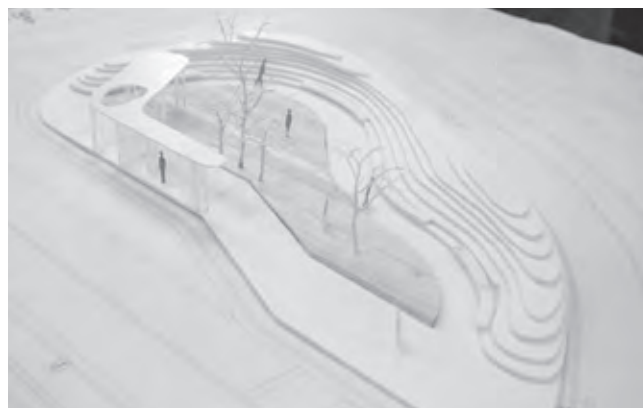
グリーンキーパーと 歩んできた5年間

～京都光華女子大学 地域連携推進センター
センター長 高野拓樹さん～

この春より、当会議普及啓発実行委員会 会報誌小委員会では、京都光華女子大学地域連携推進センター長の高野拓樹先生を幹事に迎え、活動を進めていきます。今号では、高野先生率いる京都光華女子大学の環境活動や地域連携の最前線をご紹介しますと共に、今後の活動目標についてお話を伺いました。

「チーム西京極」、地域連携の可能性

高野先生の研究室に伺って、すぐに目に飛び込んで来たのは白い広場の模型。ゆるやかな丘陵にはベンチが配され、ウッドデッキでは人々がのんびりと寛いでいます。「この模型は、西京極駅前の緑地帯を、地域の憩いの場としてもっと活用していきたい、という地域の皆さんの想いが詰まったものです」と高野先生。西京極の駅前には巨大なケヤキが植えられており、近年、落ち葉の管理や鳥の糞の始末が課題となっていました。そこで、平成25年、右京区役所の呼び掛けにより、駅前緑地帯整備事業を推進する「チーム西京極」が結成されました。「地域住民や近隣企業、関係団体、行政と一緒に駅前広場の‘理想の姿’を話し合う場を何度も持ち、地域連携推進センターでは環境面のアドバイスをを行うなど、積極的な意見交換を行いました。10年後、20年後を見据えた、まちづくり、環境づくりの



西京極駅前緑地帯の模型

大切さを、地域の皆さんと共有できた意義は大変大きいです」高野先生の熱意がひしひしと伝わってきます。伐採したケヤキは、京都光華女子大学の環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」の学生たちが製材し、椅子や花壇、掲示板などをつくり、平成26年度中に完成予定の駅前広場でお披露目される計画です。

「グリーンキーパー」の活動とは

「グリーンキーパー」は平成17年に発足した学生サークルで、現在1・2回生を中心に、約30名が活動に参加しています。学内の緑化に加え、平成22年には京都市内にあ

る街頭ごみ容器の分別率を向上させるために、右京区民の皆さんと一緒に分別シールのデザインを考案。候補の中から、どれが一番伝わりやすいのか、実際に街の人々にも調査に協力してもらい、工夫を重ねました。出来上がった分別シールは「とても分かりやすい」と観光地などでも好評

で、「自分たちの力を、地域に役立てることができるんだ！」という実感は、学生たちの大きな自信に繋がりました。他にも、環境学で学んだ知識を活かし、南丹市にある京都大

学芦生研究林でフィールドワークを行ったり、近年深刻化しているシカなどの獣害対策にも取り組んでいます。

「一鉢の苗木から緑のまちづくり」を合言葉に

グリーンキーパーの代表である佐々木宏美さん（2回生）は、草木との触れ合いを求めて本サークルに入部。年に2回行われる学内の花壇の植え替えでは、1回生に指示を出しながらも慣れた手つきでどんどん草花を植えていきます。今では、学外からも「花壇づくりに協力してほしい」と依頼が来るそうで、この日は京都府立東稜高等学校での花壇づくりのための、綿密な打合せが行われていました。「この場所にはこんな花を植えたい」と、佐々木さん



街頭ごみの計量の様子

が作成した植え込みプランを見ながら、高野先生の指導にも力が入ります。「本学では、学生の活動を事務局や教職員がとても応援してくれます。グリーンキーパーが地域や他の教育機関とス



学内緑化の様子

ムズに連携できるのは、私たちの活動を理解し、サポートしてくれる大学の協力体制があるからです。」質の高い地域貢献を実現するためには、信頼関係を築くことが大切です。「一鉢の苗木から緑のまちづくり」を目標に始まったグリーンキーパーの活動は、今では光華女子学園の環境活動の要となっています。

環境を大切にできる大人に

“環境活動は面白い！”という雰囲気を作ることが、自身の役目と考える高野先生。今後は、学生が自分たちで活



高野先生

動計画を練り、それを実行する力を身に付けて欲しいと願っています。また、環境分野は、女性の持つ優しさや細やかな気付きを存分に活かせる分野だとも仰います。光華女子学園は、幼稚園から大学院までの学齢が揃う一貫校。大学生と中高生と一緒に環境活動を行ったり、大学生が小学生に環境教育を行ったりと、学内での交流を更に活発化し、他大学との研究協力も深めていきたいと考えていらっしゃいます。

最後に、高野先生にグリーンキーパーのメンバーの印象を伺いました。「みんな、とてもピュア（純粋）ですね。」女性が自然体で活躍できる場を育てたい、高野先生の挑戦は続きます。

京都光華女子大学 地域連携推進センター

住所 ▶ 〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

URL ▶ <http://www.koka.ac.jp/crc/>

松村香代子（平成26年5月31日取材）



省エネ設備や自然の力を活かした仕組みの導入に積極的に取り組む
画期的な銀行

「CO₂排出量ゼロ」を目指す 京都銀行東長岡支店の挑戦！

京都銀行さん



「なが——い、おつきあい。」のキャッチコピーでおなじみ、京都府内はもとより関西、東海、関東、さらには海外（駐在員事務所 4カ所）にと167の店舗を展開する京都銀行。京都で暮らす人々にとって、欠かすことができない存在です。そんな京都銀行からビッグニュースが届きました。長岡京市にある東長岡支店が新築移転することとなり、それに伴い、なんと銀行の店舗としては画期的な「二酸化炭素（CO₂）排出量ゼロの店舗」としてリニューアルオープンしたのです。さまざまな省エネシステムを導入したという新店舗、いったいどんなふうになったのでしょうか。

画期的なシステムが導入された「地球にやさしい銀行」

今年3月10日の月曜日、京都銀行東長岡支店が大きく生まれ変わりました。

自然光の採り入れや屋内壁面緑化など、風・光・水・植物をうまく利用して二酸化炭素排出量を39%低減し、残り61%分を太陽光発電でまかなおうという「二酸化炭素（CO₂）排出量ゼロの環境配慮型店舗」としてリニューアルオープンしたのです。



自然光が届く店内

この画期的なチャレンジに至った経緯について、まずは京都銀行総務部管財室長 近藤晃朗さんに伺いました。

近藤「当行では、これまでもLED照明や太陽光発電システムの設置、地元産木材の導入、店舗周辺の緑化など環境にやさしい店舗づくりを進めてまいりました。そして今回、手狭になってきた東長岡支店を新築することになったのですが、ならば『この機会にもう一步進んでみよう』と、省エネをさらに推進し二酸化炭素（CO₂）排出量ゼロを掲げるプロジェクトが発足したんです。大和ハウス工業株式会社さんと三菱電機株式会社さんと共に企画をし、両社の先端技術を反映させ、さまざまな新システムを設

けました」

そうして前例のない店舗が完成。一瞬「ここは植物園？」と見まがうほど、緑豊かな銀行へ変身を果たしました。屋内壁面や店舗周辺を植物で囲み、店舗の外周にビオトープ（水域）を設け、ヒートアイランド現象を低減させています。また、植物で覆った外壁をさらにもうひとつの外壁で取りまく「ダブルスキんファサード」で、冬は断熱、夏は廃熱の効果をあげているのです。

近藤「緑を多くしているのは省エネと空気清浄対策なのですが、自然を愛する当行会長 柏原康夫の意思の表れでもあります。会長は京都モデルフォレスト協会の理事長でもあり、当行では北区の本山国有林に設定した、「京銀ふれあいの森」において、森林整備や野鳥の保護活動を行っているのです」



壁面緑化は京都銀行からのメッセージ

ここで育てられている植物は京都銀行からのメッセージでもあったのです。

そして、圧巻なのが太陽光発電パネルの設置。店舗屋上、南

壁面、駐車场上屋に設置して年間消費量相当分の電力を発電します。また、どれだけの発電量があるかが来訪者にも時間単位で可視化できるようになっており、5月は220%、使用量に対して2.2倍の発電量を記録したというから驚き！シルバーに輝く壁面が、新しい時代の到来を告げているようです。



屋上全面の太陽光パネルと光ダクトの採光口

パーキングも見逃せません。停まっている営業車両は電気自動車。太陽光発電機による充電で、車両からのCO₂排出量をゼロにしています。フル充電なら日々の営業活動にも航続距離の不安はないとのこと。

では、いよいよ新店舗の中へ入ってみましょう。約3倍に拡張したという広々とした屋内には、省エネや二酸化炭素排出量を削減するための、自然の力を活かした仕組みが随所に見受けられます。

たとえば自然光を反射させながら建物内部に採り込み、室内照明の一部として利用する「光ダクト」や、微風でも自然に開閉する特殊な換気窓を設け、自然の力によって室温調整を行う「自然換気システム」、夏の熱気を店内に入れない「エアカーテン」、日射を遮蔽し、外部からの熱影響を大きく低減させる「外付ロールスクリーン」や「ミスト」などなど、照明・空調での必要電力量を最少限に抑制する装置がしつらえられています。窓には、中の様子は外から見えないよう遮断しているのに光は採り入れることができ、とても明るい「採光ブラインド」。

支店長の高山哲志さんは「照明に使う電気料金の節約のみならず、自然光によって店の雰囲気がいっそう穏やかになった」といいます。



高山支店長

銀行から出る廃棄書類は機密情報。外部の目に触れぬよう処理

当誌として気になるのは、やはり「紙ごみ」の問題。日々膨大な量の書類が発生する京都銀行では、処理にどのような対策を講じているのでしょうか。総務部次長の吉川正和さんにお話を伺いました。

吉川「銀行って毎日大量に廃棄書類が出るんですよ。そしてそれらを、我々はごみではなく機密情報として認識しています。ですから捨てるわけにはいかないんです。各支店、すべて緑色のエコバッグに詰め、施錠して一拠点に集めます。この間、書類が外部の目に触れることは決してありません。そして大き



緑のエコバッグ

なシュレッダー設備にかけてトイレトペーパーや紙類の文房具、粗品のメモ帳など頒布品の原料にします。このように書類は一切を内部で処理するのです」



吉川次長（左）と近藤室長

京都銀行の廃棄書類から生まれたトイレトペーパーは京都府内、滋賀県内の公立の小中学校に配布されており、原料となる紙類が、いかに貴重な資源であるかがわかります。

省エネの最先端技術がいたるところに実装された東長岡支店は、いわば京都銀行の理念の集大成。今後、日本中の企業が動向を注目するモデルケースとなってゆくでしょう。まさに日本の未来を預かる場所なのです。

京都銀行 東長岡支店 住所：〒617-0828 京都府長岡京市馬場見場走り12-7

電話：075-955-7711 窓口営業時間：平日 9：00～15：00 定休日：土曜・日曜・祝日（ATMは利用可）

京都銀行

京都市下京区に本店を構え、広域型地方銀行として京都府内を中心に、隣接する滋賀、大阪、兵庫、奈良へも店舗展開する。「ながーい、おつきあい。」と「飾らない銀行」をキーワードとしたユニークなテレビCMで知られる。府内産木材をロビーの椅子やカウンター等の内装に利用した店舗が多く、また、金融機関として初めて携帯用ゲーム機「ニンテンドーDS」を活用したサービス「ニンテンドーゾーン」を設置するなど、地域産業発展のためさまざまな取組を行う。 <http://www.kyotobank.co.jp/>

取材日：吉村智樹（平成26年6月10日取材・撮影）

会員さん募集！ あなたもごみ減の会員になりませんか？

京都市ごみ減量推進会議では、つながりや創意から生まれる様々な活動を展開することにより、ごみを減らし、環境を大切にしまちと、暮らしの実現を目指しています。市民、事業者、行政で取り組めば、きっとできる！当会議では、ともに活動する会員を募っています。詳細は、事務局へ問合せください。

なごみ 日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●●第2回 深泥池(みぞろがいけ)●●

知っているようで知らない場所って意外とたくさんありませんか？私は左京区で生まれ育ったので今まで数えきれないほど深泥池のそばを歩いてきました。ですが深泥池について知っていることと言えば…怖い話の噂くらい。先日(5月末)、ラジオカーリポートでお話を聞いて初めて「生きている化石」である深泥池の魅力を知りました。

深泥池は京都盆地の北、北山地域の一角にある小さな池。中ほどには池の3分の1くらいの大きさの浮島があります。池の堆積物の花粉等による調査によって、14万年前からの歴史があることがわかっているそうです。そして、なんと！！氷河期からの生き残りといわれる植物が、今も多く存在しているんです。週2回、池の環境を調査し、見守られている深泥池自然観察会の成田さんは、そういった説明をしながら、氷河期からの生き残りの1つ、ミツガシワの葉を差し出しました。「食べてごらん」と言

われた通り少し口にする…「苦い。」苦味健胃薬としても知られているんだと教えていただきました。そんなミツガシワは春に真っ白な小さな花を咲かせるそうで、私も少し残った花を見ることができました。氷河時代にもこの湿地には同じ白い可憐な花が咲いていた。そう思うと、不思議な気持ちになり感動してしまいました。初夏には、水草の葉に覆われた水面が白や黄色の花真っ盛りとなり、ジュンサイが紫桃色の花を咲かせるそうです。さらには約60種類ものトンボたちが見られる。だからこそ、深泥池の水生植物だけではなく生物群集全体が、天然記念物に指定されています。深泥池の自然の豊かさ、そこで感じられる季節の移ろい。京都の宝物なんだなぁと実感しました。

ただ近年、外来種が異常に増加しているそうです。それは、人によって持ち込まれ、池の生態系に深刻な影響を与えています。深泥池自然観察会のみなさんは外来種の除去活動にも勤まれているのです。この宝を守っていくために、私たちは真実を知り愛する必要があります。身近にある貴重な環境をもっと大切に、好きになっていきたいものですね。



可憐な白い花をつけたミツガシワ(写真 成田研一)

海平 和：京都市出身、2010年 KBS 京都入社。テレビ「京スポ」、ラジオ「森谷威夫のお世話になります」などに出演中。

これって、かじ?

第5回

缶ビールの6缶パックパッケージ

このコーナーでは、暮らしの中にある「なんとなく使っているけど、本当にいるのかなぁ？」というものに注目して「これをやめれば、ごみも減るよね」というものを紹介していきます。

夏といえば、ビール！ということで、本当なら、びんビールを買いたいのですが、ビールを買うお金をケチって、つい第3のビールを買ってしまうときに思う「これって、いるかしら？」。そう、6缶パックの紙パッケージです。

一度に何本も飲む人にとっては、確かに便利です。でも、それなら、24本入りケースで買うか、いっそのことびんビールケース買いでも…。たった6本のために、ここまで立派なパッケージがいるのでしょうか？ビールメーカーもいろいろと工夫をし、できるだけ重量を抑えるように頑張っているようなのですが。

ちなみに、あまり知られていませんが、一部の定番の発泡酒には、リユースびんのラインナップがありますので、発泡酒を飲まれる方はぜひご利用下さい！ノンアルコールビールも、飲んでいる雰囲気を出すためか、リユースびんのラインナップが各社そろっています。残念ながら、第3のビールではリユースびん商品はないようです…。



▲ビール6本のためにこんなに紙をつかわないといけないものか…

(事務局 齋藤友宣)

6月6日（金）、きらっ都プラザ（京都産業会館）にて、昨年度に助成を受けた10団体の成果報告会がありました。団体それぞれが知恵と工夫をこらしてごみ減量に取り組み、今回も楽しく参考になるものがたくさんありました。

有限会社ひのでやエコライフ研究所 with室町地域ごみ減量推進会議

地域で活動する人、住む人たちが出会い、参加し、交流したフリーフリーマーケット。「衣類を無料で交換する」のではなく、様々な仕掛けでコミュニケーションが生まれることにより、交換した服と共に、“楽しい思い”が残りました。また参加したい！今度はボランティアスタッフに！と、すでに次の取組の芽が出ています。

「体操服！いってらっしゃい、おかえりなさい」プロジェクト実行委員会

リサイクルに適した体操服を購入し、ポロポロになるまで着た後、学校を通して回収・リサイクルされ、また新しい体操服に生まれ変わるこの取組。先生、保護者、子どもたちだけでなく、大学生や年配の方からも「知ってるよ」と言われるまでになってきました。全国各地からの問い合わせもあり、体操服のリサイクルが当たり前になるまで、活動はまだ続きます。

市民ぐるみ運動 山科区推進本部

区を挙げてエコに取り組んでいる山科区で、ライフスタイルの転換を進めることを掲げ、開催された取組。環境イベントと、エコライフチェックへの参加など、区民の意識が高まってきました。今後も更に多くの方への啓発が進められます。

北区地域ごみ減量推進会議

三世代が学び、考え、楽しみながら実践し、エコ意識の高揚を図ることを目的に開催される「北区ECOまつり」。各学区の地域ごみ減量推進会議のメンバーが企画し、毎年イベントを楽しみにしている人も増えました。今後はこれをどのようにごみ減量の“実践”に繋げられるかが課題とのこと。皆で知恵を出し合い、今年も取組が続きます！

社会福祉法人 オリーブの会

山科区小山地域で発生する大量の落ち葉を堆肥化するごみ減量と、それを活用した京野菜づくりで地産地消、地域のネットワークの活性化を目指した取組。現在、畑で山科なすが育ち、次のステップに向け、人が繋がり、その環が太くなるようとしています。

残念ながら短い時間での発表でしたが、熱い思いと楽しみながら活動されていることが、ビシビシと伝わってきました。「これからも多くの人を巻き込んで、長く活動を続けていただけることを願っています」高月会長からの期待の言葉で閉会した後も、団体同士や、見学者との交流も見られ、ごみ減量の活動の輪が太くなりました。

（事務局 藤田一美）

紙漉き教室を広める会

身近な牛乳パックを用いて、資源の大切さを伝える紙漉きワークショップ。DVD作成により、作業の工程を伝えやすくなりました。これからも出張ワークショップを実施していきます！

ふろしき研究会

ふろしきとリユース瓶のお酒を用い、容器包装ごみを減らすエココミュニティ形成へのきっかけづくりを提案した「酒屋さんはふろしき包みギャラリー」。市内13の酒屋さんの店頭で、リユース瓶のお酒が、ふろしきで素敵に装われ、お客さんにも大好評。ふろしき包みにチャレンジしたくなりました！

醍醐西地域ごみ減量推進会議

地域の大人と子どもと一緒に、ごみ分別についての疑問やアイデアを出し合い完成した「ごみ分別の双六ゲーム」。醍醐の名所も盛り込み、ごみ減量だけではなく地域へも興味を持つ工夫も。学校だけではなく、各種イベントでの活用を進めておられます。

Ladies'Eco Circle “プラムロード”

年間を通して、落ち葉等の堆肥を活用した野菜畑やエコの勉強会、地域清掃やリユース食器の活用でほとんどごみの出ない夏祭りを開催。活動は年々広がり厚みをみせ、参加者だった子どもが成長し、スタッフになるなど、未来の環境リーダーが育っています。エコと安心安全の輪が「まちの和」へ。これからも活動は続きます。

九条地域ごみ減量推進会

小学生が、地域の大人と一緒に環境の勉強をし、それをイベントや学校での発表の場で、広く地域の人に発信。舞台上でメッセージを「どう伝えるか？」、イベントで地域の人に「どう声をかけるか？」。プロからのアドバイスと繰り返しの練習を経て「成し遂げられる力が自分たちにはある」という成功体験を共有できた様子。今後、地域全体がさらにパワーアップしていきそうです。

当会議では、ごみ減量に取り組む団体を応援しています！

当助成金事業では、アドバイザーが助成団体の活動をサポートします。（次の応募は、27年春頃を予定しています）

お問い合わせは、当会議事務局（647-3444）まで。

演じて、伝えて、エコパワー発信 小学生たちの力を伸ばす活動

子どもたちが企画力、実践力、コミュニケーション力を蓄えることは、地域に必ず跳ね返ってくる…。未来志向の観点から平成25年度「ごみ減量モデル事業」*の助成金を活用して事業を行った九条地域ごみ減量推進会（以下、九条ごみ減）を訪ねました。

*京都市ごみ減量推進会議が行っている「市民等からの提案によるごみ減量モデル事業」P.7参照

始まりは使用済てんぷら油の回収だったが…

平成16年、南エコまちステーションの働きかけで、使用済てんぷら油回収をきっかけに発足後、九条ごみ減は、地域の結束力で積極的に活動を展開します。

九条学区は、京都市より平成23・24年度、低炭素のモデル地区「エコ学区」に認定されており、同会は推進母体となって「くらしの匠」と「地域実験」事業を推進。戒光寺公園の清掃など美化活動をはじめ、施設見学やエコクッキングを実施してきました。これらの事業は九条ごみ減の単独ではなく、九条学区社会福祉協議会など諸団体の支援や協力を受け、九条学区全体で取り組んでおり、また地域の学校である九条弘道小学校や九条中学校との協働体制も根づいていました。

落ち葉の堆肥化やエコクイズが下地となって

九条ごみ減は「ごみ減量を中心としたエコイベントをプロデュースしよう！」と銘打った助成金事業を成功に導きます。そこに至るまでのプロローグを紹介しましょう。

プロローグその1は、九条弘道小学校での落ち葉の堆肥化。平成24年秋、九条ごみ減は、京都市の生ごみ・落ち葉等堆肥化活動事業の助成により、校庭の一角に手づくりのコンポストを設置しました。落ち葉集めの主役は、キッズボランティアに登録した同小学校の児童たち。地域の協力を得て堆肥化を進め、腐葉土を作ります。

プロローグその2は、「エコクイズ劇」。エコ学区2年目の地域実験事業の一環として、「子ども文庫祭り」や「九条げんきまつり」で、プロの俳優さんたちと一緒に演劇仕立てのクイズを披露。これに触発され、今度は我々が主役だ！と、地域・PTA・先生たちも一緒になって「エコクイズ劇」を平成25年3月九条弘道小学校の児童の前で演じました。にわか仕立ての素人集団ではありましたが、それを見た子どもたちは大いに盛り上がりエコ意識を高めてくれたのです。

プロローグその3は、九条弘道小が取り組んでいたアントレプレナー教育。5年生は「九条弘道エコラボ」と名付け、学年全体をひとつの会社と見立てて起業を意識した学習を進めていました。このことから「5年生に絞り込んで」事業を進めることとなります。

好評を得た「げんきまつり」での発表



「南区民ふれあいまつり」でエコ宣言

5年生の児童と九条ごみ減、プロの劇団員たちが合同で「地域イベントで自分たちは何を伝えたいのか」をテーマにワークショップを3回実施。ディスカッションあり、演劇ありのプログラムを11月5日・11日・19日と開き、子どもたちは飛躍的に力を身につけます。地域の催し「南区民ふれあいまつり」（11月10日開催）で、代表3名が「エコ宣言」し、自ら考え自ら企画した力を発揮します。

本事業の主となる「九条げんきまつり」（11月24日・九条中学校開催）では、舞台班「エコクイズとエコ宣言」とブース班「エコ相談所」に分かれ発表を行いました。「ごみ」「水」「電気」をテーマにしたクイズを芝居仕立てで行った舞台班。省エネの方法などを研究し、相談に応じるほか、堆肥化でできた腐葉土を手づくりの新聞紙エコバッグに入れてお土産としたブース班。子どもたちの活動は、大好評で「面白く参考になった」と、地域の人々の評価を得ます。

子どもたちの活躍は、翌年2月14日、小学校事業である未来創造プロジェクト「ふれあいタウン」へと続き、1年間の取組と自分たちで考案した「エコ」を発表しました。

「子どもたちの発信力のなんと強さ！」地域を変えることさえできる…。九条ごみ減の人々は、子どもたちとともに、未来に向け、環境を守ろうと意思を再確認したのです。



後列 東原幹人教頭先生 中路茂九条地域ごみ減量推進会前会長
田中一郎九条地域ごみ減量推進会会長
前列 山田小百合校長先生 田中一明九条自治連合会会長

森田知都子（平成26年5月28日取材）